

令和5年度 府中市立府中第六中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 発表を行う上での基本的な知識や技能を用いることができない生徒が一定数いる。 漢字に苦手意識を持っており、ノートやそれ以外のプリントなどでひらがな交じりの文章を書く生徒が多数いる。 提出物や忘れ物をする生徒が一定数いる 	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい発表を学ぶために本番を行う前に、グループ内での発表の練習を行う 漢字を練習するためのプリントなどを通じて、新出漢字や既習の漢字を書く習慣をつける。 授業の最後に次回の宿題の確認をする時間を設ける。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎計算が苦手な生徒が一定数いる。 長文問題に苦手意識を持っている生徒が多く、途中で諦めてしまう生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算練習の時間を増やすとともに、計算テストや章末テストを行って、現状を知るとともに勉強する機会を増やす。 授業で細かく分けて説明して、少しずつでも正解できたという成功体験を積み重ねられるようにする。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 知識の詰め込みにならない、科学的思考力の向上 家庭学習の習慣化と絶対量の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 対話的な授業を行い、生徒同士の話し合いや教員との討議の場を増やすことで、多様で多角的な考え方を引き出し、科学的思考力の向上につなげていく。 GIGA 端末を使い、課題提出時刻を休日や家庭滞在中に設定したり、オンライン学習ソフトなどを積極的に取り入れた課題にしていく。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地理的感覚が乏しく、日本地図で都道府県の位置がわからなかったり、世界地図でおおよその地域の位置関係がわからない生徒がいる。 歴史分野では時代の順序やつながりを見いだせず、知識がぶつ切りとなっている生徒が一定数存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理分野だけでなく歴史分野の授業プリントでも地図を入れたものを作成し、必要に応じて地図帳を用いた授業を行う。小テストで学習状況を確認する。 異なる時代についてテーマ（人物・出来事・民衆のくらし）を定めて比較検討を行う学習課題を実施し、生徒自身で時代の変化を見つけられるようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に取り組んでいるが、変声期と重なり正確な音で歌えない生徒もいる。 マスクでの生活が長いこともあり、口をしっかりと開いて歌うことができない。 楽典などの基礎知識が身につけていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 階名唱やユニゾンの練習に取り組むと同時に、無理な発声や音域にならぬよう歌いやすいパートを選ばせ、歌うよう呼び掛ける。 母音による口の開け方の違いなどを学習し、口を開いて歌うことへの意識をもたせる。 ワークシートなどで基礎知識の向上を図る。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動に対する苦手意識をもった生徒もいる。 着彩による表現(絵の具などの用具の扱い)に苦手意識をもった生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から多様な表現技法や、表現の工夫について紹介することで、表現活動への興味や関心を高める。 参考作品を提示したり、用具の扱い方についても丁寧に解説を加えるように指導の工夫を図る。また個に応じたアドバイスや指導の充実を図る。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> 四肢の機能が違う生徒が複数おり、工具の使用について問題がある。 話を確認せず勝手に作業してしまう生徒が例年いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助員の方と相談しながら、危険に対して十分考慮して、適切な援助を行う。 説明をし、その内容を作業を一つ一つ別に行いながら取り組むように指導していく。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 基礎縫いの技術が身に付いていない生徒がいる。 振り返りでは授業で説明した内容を羅列するのみで自分の生活と結び付けて書くことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し確認できる資料の提示、補修等で少人数での指導を行っていく。 振り返りを書いた際には、ペアやグループで発表しあうなどして、違う意見を取り入れて学びあえるようにする。生活のどの様な点と結び付けられるかヒントを提示する。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の課題を明確にすること。 自己や仲間の課題について、自己の考えたことを他者に伝えるように言葉や文章に表したりすること。 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することや効果的な練習方法を実践すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の指示・説明及び学習カードに学習ごとのねらいや課題発見の観点を明確に提示する。 タブレットを活用して運動の様子を撮影し、仲間同士で確認する機会を計画的に取り入れる。 グループ活動を計画的に取り入れるとともに、協力して練習したり、話し合い活動をしたりする際の共通認識や留意点を確認しながら学習を進める。 課題に応じた効果的な運動の取り組み方や練習方法を紹介し、自己・グループで選択できるようにする。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 単語の発音が聞けて、まねできるが、音声で文字にならなことが苦手な生徒が一定数いる。 型どおりの英文は言えて、書くことができても、自分で考えて会話を作り出すことが難しい生徒が多い。 家庭学習の定着ができていない生徒が半数近くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> フォニックスを含め、文字と音をつなぐ練習を授業内にたびたび入れる。 ペア/グループワークで、様々なシチュエーションにおける会話作りの活動を増やす。また、友達のよい例をたくさん聞かせる。 宿題はもちろん、プラスアルファ課題などで、家でもやってみたくなる教材を工夫する。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第六中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習得は得意な一方、既習の漢字をひらがなで書くなど、学習した知識を継続して活用することが難しい。 言葉の活用など文法に苦手意識をもっている。 他者の考えを聞いて、積極的にメモする生徒がやや少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の読みや書きの確認の時間を取り入れる。加えて、既習済みの漢字も確認し、生徒が継続的に漢字に触れられるようにする。 学習した内容を他者に教え合う活動を取り入れ、各生徒の理解を深める。また、授業内で小テストを実施する。 ワークシートにメモ欄を設け、他者の意見を記入しやすいようにする。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に計算力に課題がある。 思考力・判断力・表現力を問う問題では、1学期において全体で正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算を丁寧に指導する。毎授業での家庭学習の提示・確認と、単元テストや小テストを行いながら、計算力を身に付けさせる。 計算力と同様に取り組んでいく。また、授業内や単元内で、思考力を必要とする問題へ取り組む時間も確保しながら記述力や表現力を丁寧に指導していく。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自ら問いを持ち、実験や観察に積極的に取り組むことができる一方で、科学的な見方や考え方に則して結果を解釈したり、考察したりする場面に苦手意識を感じる生徒が多い。 基礎的・基本的な知識や技能の定着に課題があり、自らそれを活用しながら自分の考えを持ったり、他の人と考えを交流したりする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮説や実験方法の設定場面において、科学的な見方考え方を自ら活用して実験方法を検討する機会をつくることで、仮説に正対した結果の解釈が行えるように支援する。 基本的な知識や技能を活用する学習課題や探究活動を行うことで、単なる知識の暗記ではなく、知識の関係性や意味を重点に置いた指導を行う。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察については、興味・関心をもって取り組んでいるが、その結果を踏まえて正しく考察する力が足りない生徒が多い。また、基礎・基本の定着を全体としてまだまだ図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストやグループ活動での演習を通して基礎・基本的な知識、技能の定着を目指す。また、実験・観察の結果について、自らの考えやほかの人の考えを共有し意見交換するなど、科学的に考察する力を高めさせるような授業展開や指導を行う。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的・主体的に活動することができる生徒がいる一方で、集中力が続かなかったり無気力だったりする生徒が一定数いる。 歌うことに抵抗感がある生徒が一定数いるが、グループ練習などでは自発的に考え動いたり、声を出せる生徒も多い。元気で明るい雰囲気を生かしつつ表現活動をより充実させたい。 音楽の特徴を聴きとったり曲の雰囲気を感知取ったりすることが苦手な傾向が全体的に見られる。音楽の特徴を正確に聴きとり、感じ取ったりしたことと関連付けて自分の言葉で書き表すことができることを目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒が自分の課題を把握し主体的な活動ができるように授業展開を考える。授業ごとに活動のフィードバックをし、意欲的に頑張っている生徒を褒めるなどして頑張れる環境を整える。 グループ活動を積極的に取り入れ、楽しんで歌い合いを認め合えるような雰囲気をつくる。そのためにリーダーの育成を行う。 音楽に対するイメージをもちやすい楽曲を取り扱う。簡単な言葉でも自分の感覚に近い表現を使って書き表すことができるよう、短い文章を書く機会を多く設ける。また、表現の仕方や考え方を共有する場面を増やす。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩の効果における表現活動に、苦手意識をもった生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年時の既習内容を振り返るとともに、形や色彩の効果について具体的な参考作品を提示するなどの工夫を取り入れながら指導をおこなう。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> 具体的に目で見えない、電気等に理解が進まないところがある。 プログラミング学習においては、個々の力量の差が大きすぎてグループでの活動に難がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科と連携してできるだけ具体的な内容から、説明するとともに、完成までが短い題材に取り組む。 各グループに普段目立たないが、プログラミングが得意な生徒をできるだけ配置し、取り組ませる。また各個人で行うプログラミング学習も取り入れる。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 発言も多く、学習への意欲が見られる。ワークシートの記入や授業への取り組みは個人差がある。 被服実習では、ミシンの扱い方等小学校で得た技術を活用することができた。集中力に欠ける生徒もあり、けじめをつけて実習の授業に取り組むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業により積極的に参加できるよう、教材を工夫し、提示する資料も工夫していく。 器具の扱いを誤ったり、集中できなかったりすると、危険を伴う授業であることを各自が自覚して取り組むことができるよう、具体的な事例を用いながら生徒と一緒に確認していく。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分や仲間の課題を発見し、解決に向けた練習方法や声掛けの内容がまだ薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分や仲間の課題を把握し主体的な活動ができるようなワークシートを作成する。毎時間のねらいを端的にかつ明確にし、よりポイントを絞って課題について考えられるような授業展開を実践する。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 聞くことより話すことに対する苦手意識が強い。 文法に苦手意識をもっている生徒が多く、並べ替え問題や書き換え問題での正答率が低い。また、英単語の習得に対する意識も弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々のペアワーク、グループトーク等を用いて話すことに対する抵抗をなくし、ただ文を暗記するのではなく、自分の情報を英語で発信できるよう、活動を工夫する。 授業内でも並べ替え問題や書き換え問題を以前より多く取り入れ、文中での活用方法を身に付けさせる。今年度から取り入れている単語の小テストを引き続き行い、単語をきっかけに英語に触れる時間を増やす。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第六中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文法事項や漢字などには意欲的に取り組んでいる。一方、音読など声に出して読むことが苦手な生徒が多い。 記述は前向きに書いてくる生徒が多い。問題文の指示をよく読んでいない、誤字脱字などのミスがあるなど、正確に書けない生徒も多く見られる。 提出物の取り組みにはほとんどが真面目に取り組んでいる一方、出すことのできない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に文章を読み上げる機会を多く作る。 要約や自分の意見などを記入する機会を多く作り、正確に書けているかを確認する。 提出物のリマインド連絡、個別の声かけを行う。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 学年全体で計算力が身につけてきている。 思考力・判断力・表現力を問う問題に、苦手意識をもつ生徒が多い印象がある。また、問題文を読み切れなかったり、聞かれていることに答えられていなかったりするなど、課題もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に引き続き、計算問題や1,2年生の内容を問うような課題を定期的に出していく。 授業の中で、分からない問題をそのままにせず生徒同士で教え合い、課題を解決する習慣をつける。また、授業で扱った問題や、普段使っている問題集の復習を徹底する。一度解けなかった問題でも、授業の解説や問題集の解答を見ながら、自分で考え、解きなおしをするように促す。 問題文に書いてある情報を図形やグラフに書き込むこと、聞かれていることは何かを考えながら問題文を読むように声掛けをする。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察等の活動は興味・関心をもち、積極的に取り組んでいるが、結果を踏まえて正しく考察する力を高めさせる必要がある。 基礎・基本の定着がまだまだ不十分な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動等を通して、自分の考えや相手の意見を話し合い共有する場面を増やす。 小テストや問題演習を定期的に行い、基礎・基本の定着を図る。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りに関しては、複数の資料を比較したり、百分率の概念を活用したりする必要がある応用力の部分に課題が見られる。 文章で適切に表現する設問の解答に課題がある。自ら課題を設定する意欲や能力が高い生徒とそうでない生徒との差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストを実施することによって、基礎的・基本的な内容の定着や家庭学習の習慣を身につけるように促す。また、授業内で地図やグラフ、写真資料等の読み取り課題の時間を確保し、必要に応じて類似問題の反復演習に取り組む。 授業内外の課題で自分の言葉で表現する努力を促す。また、授業中に文章で表現する課題に取り組む時間を確保する。 授業に関連する内容について、自ら疑問を設定して、それを調べてまとめるという課題をノートに書かせる。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 課題への取り組みは真剣で、より良いものを作り出すとする努力が感じられる。 授業カードや鑑賞文の記述内容については未だに個人差が大きい。良い例を参考にしたり教師の助言を受けたりしながら、少しずつ書く力が身につけてきた。 音楽に関する基本的な知識は繰り返し学習することで定着してきた。読譜と関連付けて身につけることで、よりしっかりと知識を定着させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表現に自信をもてるようにする。合唱では自己の活動記録を毎時間とり、他人と比べるのではなく自分自身の成長を確認するようにする。 限られた授業内で課題を完成させることを繰り返し行い、ポイントを押さえた記述ができるようにする。 楽譜に記載されている音楽記号や音楽用語をただ覚えるだけでなく、実際の表現活動と関連付けて身につかせる。また、楽典や音楽理論も引き続き学習する。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動に対する苦手意識をもった生徒もいる。 イメージした内容に合った、表現技法の幅を広げること、より豊かな表現力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から多様な表現技法や、表現の工夫について紹介することで、表現活動への興味や関心を高める。 鑑賞の授業において、他者のさまざまな表現の工夫を見つけることで、多様な表現のよさに気付かせる。鑑賞を通じて、表現活動における意欲も高めていく。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> デザインの段階でイメージを表現するのが不得意な生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用し、デフォルトしたデザイン等を参考にさせて、デザインを行う。また、文章で表現を書かせることにより、絵の表現が苦手な生徒にも対応する。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 幼児や高齢者など年齢が離れた人との交流の経験が少なく、具体的にイメージすることが難しい生徒がいる。 振り返りでは自分の意見を伝えようと努力し、取り組む生徒が多いが、学んだことを今までの自分の意見に取り入れて、新しい方法を考えることが難しい生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児や高齢者との交流といった体験活動や、リモートでの交流などを取り入れて、幼児や高齢者の実態を知り、様々な世代への関心を高める。 振り返りを書いた際には、ペアやグループで発表しあうなどして、違う意見を取り入れて学びあえるようにする。生活のどのような点と結び付けられるかヒントを提示する。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を活用した振り返りや課題発見の力が身につけていないのが課題である。 グループで課題や作戦を立て、課題解決や作戦を実行するための効果的な練習方法を行うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用して、自己を撮影する機会を増やして、自宅で余裕をもって振り返る時間をつくったり、授業内で積極的な声掛けをしたりして課題を見つけさせる。また、生徒同士でも見合っって課題をお互いに探す機会をつくる。 課題や作戦を解決、実行できるように練習方法を提示するを行い、練習方法を探せるようにする。 		

令和5年度 府中市立府中第六中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> 英語を話す力において、練習した内容での簡単なやりとりはできるが、その場での即興のやりとりが課題である。 英文を読んで理解する力は、簡単な内容であれば理解できるが、初見の長文には苦勞している生徒が多い。 英語を書く力に関しては、生徒によって大きな差があり、書くことへの抵抗を減らす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアワーク、ALTとの会話練習、スピーキングテスト・スピーチ等の実施により、話す力を伸ばし、発表・やりとり両方の力を育てていく。 基礎的な語彙力向上を目指して繰り返し基本単語の練習を行い、単元末に単語テストを実施する。また、複数の単元にわたって共通の語彙を用いることで定着を図る。 既習の文法事項を用いて、自分の考えや英文を書く取り組みを定期的に取り入れることで、基礎を重視し、苦手とする生徒にも取り組みやすいよう課題の工夫をする。 		
------------	---	--	--	--

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。